



いわした たつや

岩下 竜也 議員

IWASHITA Tatsuya

Q. 今後の町政運営の行方は

A. 大変厳しい状況が続く

新町長に対し町政運営の覚悟やリーダーとしての資質に疑問が呈されている。

所信表明の内容と実際の言動との矛盾についても質問し、町政の舵取りを担う覚悟があるのか答弁を求めた。自ら「新給食センター」の設置という大きな投資を行いながら「過剰な投資をすれば経営は立ち行かなくなる」と主張しているが、服部町長の公約である「スカイプールの改修・存続こそが、町の身の丈に合わない過剰な投資である」と考える。地方債、つまり借金の多くは、服部氏が町長時代に設置した「新給食センター」の借金返済である。

町長が選挙で掲げた「中学校建て替え計画の見直し」に関して、7年前に自ら公表した方針との矛盾を指摘した。過去に約「5200万円」もの税金が投じられた計画を撤回する決断には説得力が欠け、町民の信頼を損ねる恐れがある。学校施設の老朽化による問題を解決するため、町

長は見直しの具体的内容や財源確保の方法を町民に説明する責任がある。

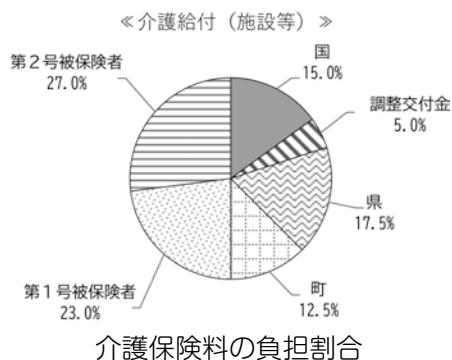
豊山町立豊山中学校（以下「豊山中学校」という。）は、町内唯一の中学校として、昭和38年に竣工し、現在は築後約60年を経過している。これまでに随時修繕等を実施してきたものの、校舎の長寿命化改修の適正時期が過ぎていることから、本町が平成31年3月に策定した「豊山町学校施設改築・長寿命化計画」（以下「改築・長寿命化計画」という。）において、豊山中学校は改築整備を前提に検討を進めることとした。また改築にあたっては、改築・長寿命化計画でまとめた目指すべき姿や整備水準等を踏まえた検討を行うこととした。

服部町長が計画した豊山中学校改築基本計画

「豊山スカイプールの存続」に向けた具体的方針と公約実現への覚悟についても住民から懸念の声が届いている。住民からの大きな期待が寄せられる中、具体的な行動が見られず、管理体制や予算確保の計画が不明瞭なままである。

次に、町長が公約や所信表明での「介護保険料の高額化」について指摘し、介護保険制度では3年ごとに事業計画を

策定しており、法律に基づいて介護保険料を算定している。また、一般会計からの補填ができないため、具体的な引き下げ策や財源の見直しプランがあるのか求めた。現在は、考えがなく、公約は実際の制度運営と矛盾している。また、すべての公約に具体性がない事が明らかとなった。「20年先、30年先の豊山」を見据えているのか、疑問があり、町民に対する説明責任を果たし、透明性の高い運営を進めるべきと考える。



町長が発言された「町財政の甘い見通し」についてどの様に感じていたのか。

A 町長

人件費や扶助費など経常的経費のほか、ここ数年で借り入れを行った地方債の償還が始まり、公債費も増加していくことから、大変厳しい状況が続くものと思う。

Q 今後の課題について伺う。

A 町長

中学校とか公共施設とかそういうものの建て替えは時代によってやってくる。

Q 前鈴木町長は10%の報酬カットを実施し、町財政に貢献した。町長ご自身も財政が厳しい状況にあると発言されるのであれば「7000万円」弱の報酬を受け取られている中で、自身の報酬を削減する意向がないのはなぜなのか。

A 町長

20%カットをして、町民の皆さまが喜んでいただければ、分らない。それよりも、他のことでしっかりと町政運営を、計画していく。